

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

○「もしも」の備えはできていますか？（共助編）

災害はいつどこで発生するかわかりません。大きい地震や風水害などが発生した時、行政や警察、消防がすぐに駆け付けられない場合があります。そんな時に命を守る力ギとなるのが、近隣住民や自治会単位で助け合う「共助(きょうじょ)」です。日頃からちょっとした声かけと備えがいざという時の大きな力になります。



～なぜ共助が必要なのか～



・公助(行政・警察・消防など)の限界

市職員や警察官、消防士も同じ人間です。災害発生時には皆様と同じように被災します。また大規模災害時は、道路の寸断や被害の広域化により、行政の支援が届くまで数日かかることがあります。

・助かった命の多くは「共助」

過去の大規模災害において、がれきの下などから救出された人の多くは家族や近隣住民(共助)によるもの
→自治会による住民の安否確認が大切！

～今日からできる、「共助力」の強化～



① 声かけ・挨拶(日頃のコミュニケーション)

- ・日頃から挨拶を交わし、近所付き合いを深めましょう！
- ・「隣近所はどんな人か」を知ることが、災害時の安否確認の第一歩です。

② 地域の要配慮者の把握

- ・高齢者、障害のある方、乳幼児がいる家庭など「災害時に支援が必要な人」を地域で把握しておきましょう。

・いざという時は誰が声をかけるかなど隣近所で話をしておきましょう。

③ 地域ぐるみの訓練や防災活動



・自治会や自主防災組織を中心に災害時の安否確認方法や避難計画を立てておきましょう。それをもとに訓練を行い、地域住民は積極的に参加しましょう。避難場所や危険な場所をみんなで歩いて確認するのも効果的です。

④ 自主防災組織活動事業費補助金の活用

・本市では地域住民による自主防災活動の促進を図るため、自主防災組織が行う防災訓練、防災知識の普及、資機材の整備等の防災活動に要する経費について、毎年度 1 回、補助金を交付しております。ぜひご活用下さい。



毎年 9 月 1 日(火)は防災の日です。2026 年は 9 月 1 日を含む 8 月 30 日から 9 月 5 日までの 1 週間が防災週間になります。本市の防災ニュースでは 8 月号で自分の命は自分で守る:「自助」9月号では地域や身近な人で助け合う:「共助」について触れてきました。

災害発生時は「自助」がベースとなり、「共助」が多くの命を救い、「公助」が復旧を支えます。



災害について、決して他人事と考えずに、各個人ができることから始めていきましょう！！！！

自治会などの防災出前講座依頼も受付中！

少人数でも訪問します。災害対策課までご相談ください。

このニュースは、災害対策課、市内の各支所、矢田コミュニティ会館、南部公民館で配布しています。また、市のHPでもご覧になれます。

大和郡山防災ニュース	🔍	検索
------------	---	----

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ！』をご覧ください。

大和郡山市消防団へようこそ	🔍	検索
---------------	---	----